



 Data	2023-70
監督: ロブ・マーシャル	
原作: アンデルセン『人魚姫』	
出演: ハリー・ベイリー/ハビエル・バルデム/メリッサ・マッカーシー/ジョナ・ハウアー・キング/ジェイコブ・トレンブレイ/オークワフィナ/ダヴィード・ディグス	

みどころ

ロシアによるウクライナ侵攻を契機として、西欧民主主義国 VS 専制共産主義国との対立が激化。地球上は新たな冷戦構造が強まっているが、それは本作に見る、七つの海を支配する海の王と人間との対立ほどではないはずだ。

人間への興味が尽きない人魚姫のアリエルがある日、難破した船からエリックを救助したところから、ロミオとジュリエットばりの恋模様が……。しかし、人間 VS 人魚姫の恋が成就するはずはない。いくら LGBT の新法案が成立しようとも、この2人の結婚は無理！

そう思うのは、既成概念にとらわれた老人や弁護士感覚。ディズニー映画なら何でもあり！『シカゴ』（02年）のロブ・マーシャル監督が導く本作ラストの感動とは？さあ、ロシアのプーチン大統領はこの結末をどう考える？

— * — * — * — * — * — * — * — * — * — *

■□■童心に戻り、ディズニー映画を心いくまで！■□■

中学時代の私は、日曜日ごとに1人で3本立55円の映画館（二流館）へ行き、日活映画や古い洋画を観ていた。そのため、時々一流館（封切り館）で上映されるディズニー映画は憧れの的だったが、料金が高いため観ることができなかった。もともと、ウォルト・ディズニー・カンパニーは1923年の設立から100周年を迎えているから、TV放映されたものを含めて、白雪姫をはじめとする、数々のディズニー映画はアニメ、実写を問わずたくさん観ている。

しかして、あなたはアンデルセンの童話『人魚姫』の物語をちゃんと知ってる？また、1989年に公開された最後の劇場版セル・アニメーション映画『リトル・マーメイド』をちゃんと知ってる？残念ながら私は両者とも中途半端にしか知らなかったが、今般それが、『シカゴ』（02年）（『シネマ2』59頁）のロブ・マーシャル監督の手で実写化され

たから、こりゃ必見！久しぶりに童心に戻り、ディズニー映画を心いくまでタツプリと！

■美しい海底の世界にビックリ！七つの海の支配者は？■

愛媛県松山市生まれの私は、母親の故郷が電車で約30分の所にある海沿いの町、郡中だったから、海的美しさと厳しさはよく知っている。また、1989年に南海サウスタワーホテルのフィットネスクラブに入会し、プールで泳ぎ始めた頃には、はじめてシュノーケルを覚え、1度だけ日本海の海でそれを楽しんだことがある。また、2023年の今は、帝国ホテルのフィットネスクラブのプールでほぼ毎日ゴーグルをつけて水の中を見ている。そんな私だが、本作を観てはじめて美しい海底の世界にビックリ！スクリーン上で表現される映像の美しさがここまで進化していることにビックリ！

他方、“大航海時代”最初の世界の“海の支配者”はスペインとポルトガルだったが、1588年にスペインの無敵艦隊がイギリスに敗れた後、それはイギリス（大英帝国）に代わった。しかし、『リトル・マーメイド』が描く“七つの海”の（底の）支配者は、海の王トリトン（ハビエル・バルデム）だ。本作導入部では、トリトンの末娘である、人魚姫のアリエル（ハリー・ベイリー）が見せる人間世界に対する憧れを中心とした、“ロイヤルファミリー”たるトリトンの“家族会議”風景や七つの海の支配ぶりを、美しい映像の中でしっかり楽しみたい。

■英国王の息子の冒険心は？海への憧れは？■

高度経済成長時代をひた走った1950～60年代の日本では、石原裕次郎が“海の男”の代表だが、1970年代以降の“海の男”には加山雄三が加わった。2人とも水着（海パン）姿がよく似合う上、とにかくヨットがよく似合う男だ。それと同じように、本作に登場する英国王子エリック（ジョナ・ハウアー・キング）は、英国内だけでなく広く海外に目を向け、海を通じて新しい英国を作りたいと考えていたらしい。これは、幕末時代の坂本龍馬と同じだ。龍馬は自ら海援隊を組織し世界貿易に乗り出したが、エリックは今、船に乗って大海原の冒険に乗り出しているらしい。

もともと、当時の船では大嵐に遭えばひとたまりもない。アリエルが愛用している海の底の某所は、そんな沈没船や沈没品でいっぱいだったが、ある日、大嵐に遭遇したエリックの船もエリックの志とは裏腹に、残念ながら、それと同じ運命に……。そんな状況下、船はともかく、瀕死のエリックを海中から救い出したのがアリエルだ。近くの島の浜辺にたどり着いたアリエルはエリックの身体を横たえたが、さて彼の生死は？アリエルの介抱風景を見ていると命に別状はなさそうだが、エリックの救助隊が近づいてくると、アリエルは海の中へ逃げざるを得ないことに。すると、これにてロミオとジュリエットの出会いにも似た、アリエルとエリックの出会いはおしまいに……？

■人魚姫の人間への憧れは？魔法の企みは？■

人間世界では最高権力のあり方をめぐる争いが昔から続いているが、海の世界にもそれに近いものがあるらしい。『白雪姫』に白雪姫の美しさに嫉妬する継母の王妃（魔女）が登場

場するのと同じように、本作には虎視眈々とトリトンの最高権力を狙っている魔女のアースラ（メリッサ・マッカーシー）が登場し、アリエルの人間への憧れを利用して、ある企みを持ちかけるのでそれに注目！それは、アリエルが美しい声を失うのと引き換えに、アリエルを人間の姿でエリックのもとに行かせ、ある期間内に熱いキスを交わせなければ、永遠に声を失ってしまうというもの。表面上はそれだけの条件だったから、アリエルはこれを受け入れたが、実はそれ以外にも、圧倒的にアースラに有利、アリエルに不利な内容が隠されていたから、さあ本作中盤、人間の姿になったアリエルとエリックとの恋模様の展開は？

2本足で歩き始めたアリエルを密かに応援するのは、カニの執事のセバスチャン（ダヴィッド・ディグス）とカモメのスカットル（オークワフィナ）。エリックは、あの日以降ずっと命を救ってくれた“あの女性”を探し求めているが、残念なのは突然目の前に現れた口のきけない少女がああ時の女性だと気づかないこと。ロミオとジュリエットの物語は2人の出会いを契機にして、一気に絶頂から“ある悲劇”に向かって進んでいったが、本作中盤は少しイライラする（？）2人の恋模様の展開になるので、少し気を長くもってそれを見守りたい。

■□■人魚姫は白い肌に赤い髪？否！本作のそれは？■□■

1989年のアニメ版『リトル・マーメイド』における人魚姫アリエルは、「声と歌を担当したジョディ・ベンソンの澄んだソプラノで、「箱入り娘」といった風情だった」らしい。そのため、ロブ・マーシャル監督が本作のアリエル役に、黒人系女優であるハリー・ベイリーを起用したことについては賛否両論が巻き起こったらしい。反対派の主張は、「白い肌に青い瞳、赤い髪というアニメ版のアリエルと黒人のベイリーの外見的な特徴が大きく違う」というもので、本作がアニメ版のイメージと大きく違うことに異を唱えるものだ。しかし、私は本作の冒険心に富んだ、オンナ版坂本龍馬（？）とも言うべき、ベイリーによるアリエルが持つ世界観と行動力に納得！

若いだけに何事にも前向きなところが素晴らしいわけだが、それが同時に弱点になることは、坂本龍馬が31歳の若さで暗殺されてしまったことを見ても明らかだ。しかして、カニの執事とカモメの応援を得たアリエルのエリックへの思いは後半にかけてどのように通じていくのだろうか？そして、この口のきけない女の子が、あの時に自分を救ってくれた女性だと気づいた時のエリックの対応は？

たかが童話！そう思いつつ、74歳の私も思わずディズニーの世界へ誘われていくことに。

■□■所詮は別世界の男と女！そう思ったが・・・■□■

シェイクスピアの『ロミオとジュリエット』は同じ人間同士の恋だったが身分違いのために、また、それを現代のニューヨークに置き換えたミュージカル『ウエストサイド物語』は2人が対立するグループに属していたために、両者とも悲劇的な結末になってしまった。

そう考えると、エリックが属する人間の世界と、アリエルが属する海底の世界は、『ウエストサイド物語』のジェット団とシャーク団以上に相容れないものだ。現に、海の王トリトンは娘たちに「絶対に人間に近づいてはいけない」と厳命していたし、エリックの両親は「海は魔物」と考えていた。

その上、エリックは人間、アリエルは人魚だから、そもそも結婚できるはずがない。国籍が異なる者同士の結婚や同性同士の結婚はあり得ても、人間の男と人魚姫との結婚は無理。だって、そんなことをすれば、生まれてくる子供は・・・？

しかし、そんな要らざる心配は、人間世界、もしくは弁護士特有のものらしい。つまり、ディズニー映画ではそんな心配は、トリトンが持つ万能の杖（黄金の杖）を一振りすれば解決するらしい。なるほど、なるほど。

しかして、魔女の策謀が成功し、いったんはその権力をすべて魔女に奪われてしまったかに見えた海の王も、無事復権できたから万々歳。しかして、本作ラストに見るトリトンの決断とは？そして、あっと驚く2つの世界の融合とは？

■冷戦構造は？米中対立は？ディズニー映画なればこそ！■

ロブ・マーシャル監督の『シカゴ』は、1920年代のシカゴのショービジネスの世界を舞台とし、2人の歌姫（ダンサー）と凄腕弁護士が登場し、不倫殺人事件を巡る陪審員たちとの攻防がスリリングに展開する面白いミュージカル映画だった。しかし同時に、不倫殺人を犯しながら、凄腕弁護士のゲーム感覚による活躍により陪審員がコロリと騙された挙句、無罪となっていくというストーリー展開には、弁護士として抵抗感があつた。それに対して、本作ラストの何とも前向きな結末は、「これぞディズニー映画！」と思える素晴らしいものだ。

他方、既に1年4ヶ月も続いているウクライナ戦争の深刻化はもとより、“台湾有事”も近い将来の現実ではないかと心配されているのが、昨今の世界情勢。第2次世界大戦終了後の“東西冷戦”は何とか“雪どけ”を迎えたが、戦後70数年間ずっと平和を享受できている国は日本だけで、世界中では戦争の惨禍が続いている。しかして、本作に見る、人間のエリックと人魚姫のアリエルは東西冷戦、ウクライナ戦争、台湾有事以上の異質な世界のはずだが、本作ラストに見る2つの世界の融合とは？本作の感動的結末をロシアのプーチン大統領はどう考える？

2023（令和5）年6月14日記